

長年の功績に光

長年にわたりそれぞれの分野で
尽力された方々が栄誉に輝かれました。
春の叙勲・褒章受章者

瑞宝双光章



上府中町
森 光弘 [75歳]
現 七尾人権擁護委員協議会会長

瑞宝双光章



矢田町
木下 ひろ子 [65歳]
現 救護施設「七尾更生園」支援員

瑞宝双光章



古府町
相川 泰 [78歳]
元 公立中学校長

瑞宝単光章



古府町
辻口 強 [73歳]
七尾仏壇蒔絵製造業従事者

瑞宝単光章



庵町(百海町)
瀬川 強 [70歳]
元 七尾鹿島広域圏事務組合
第1消防団副団長

瑞宝双光章



江曾町
森田 文枝 [61歳]
元 恵寿総合病院副院長兼看護部長

危険業務従事者叙勲
瑞宝単光章



能登島須曾町
道下 三基 [61歳]
元 3等陸尉

危険業務従事者叙勲
瑞宝単光章



御祓町
間蔵 俊男 [84歳]
元 海上保安官

危険業務従事者叙勲
瑞宝双光章



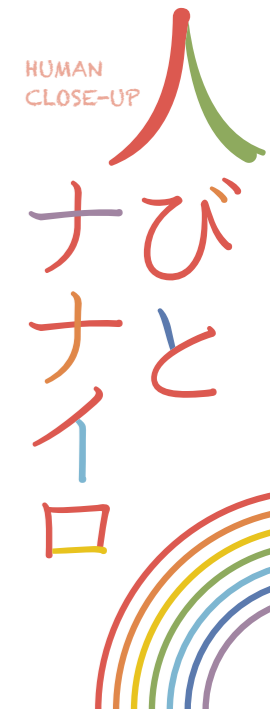
飯川町
佐渡 好紀 [67歳]
元 七尾鹿島広域圏事務組合消防本部
消防司令長

かるたが、七尾の昔話を知る きっかけになってくれたら。

かるたの絵を描いた
水田 綾子さん



七尾・鹿島に伝わる昔話を楽しみながら知ってもらおうと、図書館友の会が制作した「七尾・鹿島むかしかるた」。かるたの絵は、大学で日本画を学んだ水田綾子さん(27歳・馬出町)が描いた。



昔話の絵という若い人が描くイメージはなかったが、どんな女性なのか気になり取材した。

水田さんは、130年以上続いている手彫りの印刷店で、印章彫刻技師として印鑑を作っている。実際にお会いしてみると職人というイメージとはかけ離れた、やわらかい雰囲気的女性だった。

きっかけ
「七尾・鹿島むかしかるた」は「の昔ばなし」という本の著者、坪井純子さん(90歳・矢田新町)が、本を書き上げた時に「かるたを作ったのもっと気軽に昔話を覚えてもらえるのでは？」と考えたことから生まれた。坪井さんが、かるた用の読み上げの文章を作ったが、絵を描く人がなかなか見つからず困り果てていた。そんな時、「しびびの会」という読み聞かせボランティアをしていた水田さんの母親が、図書館友の会の人に「娘が絵を描ける」と紹介したのが、きっかけだった。

46枚のかるた
小さい頃から絵を描くことが好きで、大学で日本画を学んだ水田さんだが、50枚近くの絵を依頼され二人でできるか不安だったと振り返る。

かるたの絵は、平成25年6月頃から半年かけて制作された。昔話の解説文から物語を想像し、どの場面を1枚の絵にするかを考える。若い水

田さんにとって、言葉の意味がわからないことも多く、母親に聞いたり、坪井さんにどんなイメージなのか聞いたりして書き上げた。それでも、水田さんの思いと、坪井さんと図書館友の会の皆さんの思いが違うものもあり、何枚も手直しして、やっと完成した。「でき上がったかるたを見たときは、とてもうれしかった」と話す水田さんの表情は、達成感に満ちあふれていた。

かるたへの思い
「私が描いた絵のかるたを市民の皆さんが大事にしてくれる。やりがいのある仕事をさせてもらえました。私自身、かるた制作に携わり、こんな昔話があったのかと学ぶことも多かったです。かるたを通して、子どもたちはもちろん、若いお母さんたちにも、七尾の昔話を知ってほしい」と思いを語った。

七尾市民である坪井さんと水田さんの思いが詰まった「七尾・鹿島むかしかるた」。かるたの読み上げ文章の裏には、昔話の解説が書かれている。かるたを楽しみながら、皆さんで七尾に伝わる昔話を後世に伝えてほしい。

「七尾・鹿島むかしかるた」
のお問い合わせは
中央図書館
☎53・05883
(販売元 図書館友の会)